ハウス建て方手引書

パイプハウス組立手引き書
当社型式EK305

秋田共栄物産株式会社
秋田県秋田市土崎港相染町字浜なし山
17-10
電話018-846-1511　FAX018-846-2112

ハウス建て方手引書

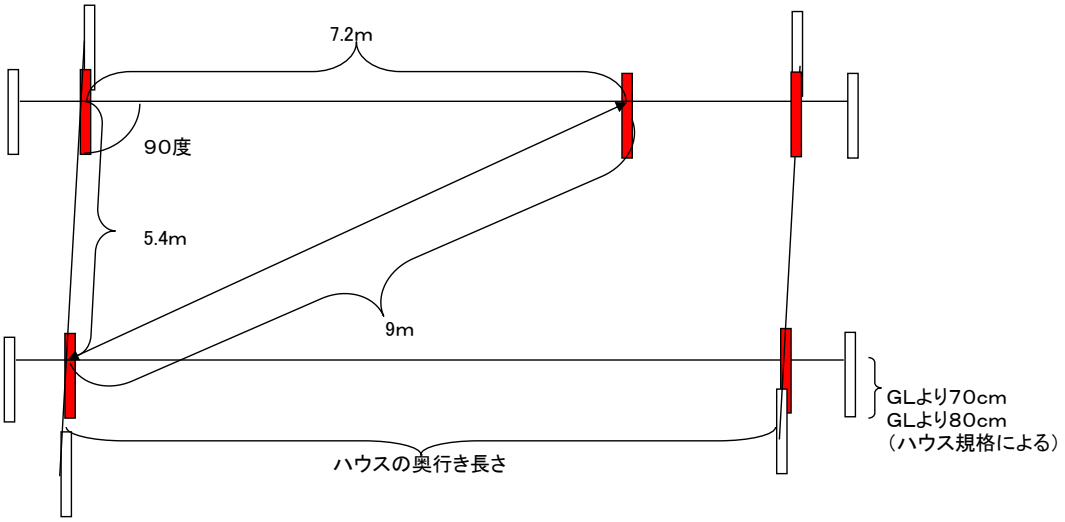
1．事前準備

使用工具類（全て揃わなくとも工夫すればできま

ハウス建て方手引書

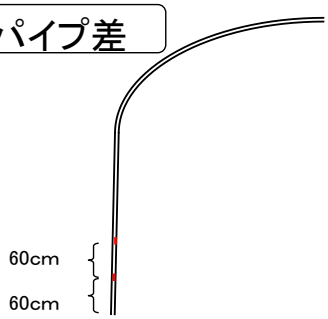
丁張り作業

間口3間（5．4m）の場合



直角を出すには、3間（5．4m）x4間（7．2m）の対角線長さが5間（9m）になるように測ってください
目安として建てた赤い杭は曲がりパイプが立つ部分にあたるので後ほど撤去します
また、対角線を図り、同じ長さになるようにしないとひし形になって居ます

曲がりパイプ差

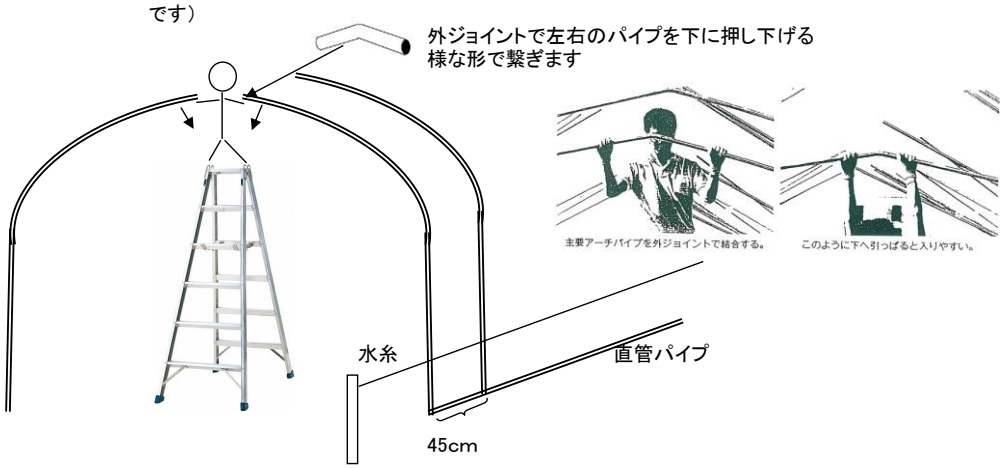


曲がりパイプには両端から60cm毎にマークが付いてますので
SE30型とSEK30型は差込深さが40cmなのでGLより80cm
EK305～ELK40型は差込深さが50cmなのでGLより70cm
の位置に水糸が来るようにして下さい。

また、奥行き方向に直管パイプを配置しておくと、45cm毎に
マークが付いているので、曲がりパイプを挿す位置が判って
作業効率が上がります

オーガ等で下穴を開け、そこに曲がりパイプを挿して2個目のマークが
水糸に合うように高さを調整して穴周りを足で踏み固めて沈まないように
しておきます。（さほど正確でなくとも直管パイプを付ける際に調整は可能
です）

外ジョイントで左右のパイプを下に押し下げる
様な形で繋ぎます



主要アーチパイプを外ジョイントで結合する。

このように下へ引っぱると入りやすい。

ハウス建て方手引書

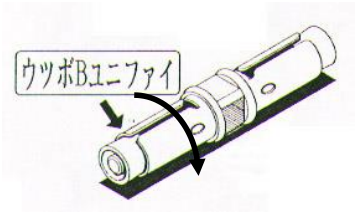
奥行き直管パイプは仕様によって以下に表記する部品で接続になります。

中ジョイント

中ジョイントが見えなくなるように
挿してください

直管ジョイント

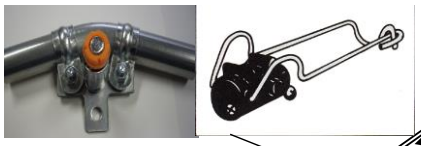
パイプが抜けないようにネジを
ペンチ等で締めてください



Bユニファイは右に廻すと抜けなくなります

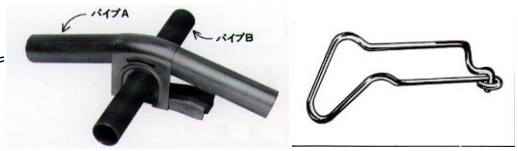
直管パイプ取付

Tポットもしくは端末フック等



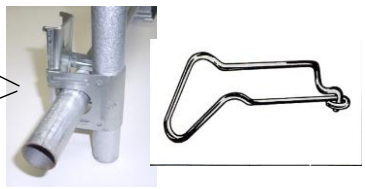
キット部材に拠ります。

トップバンドもしくはフックバンド

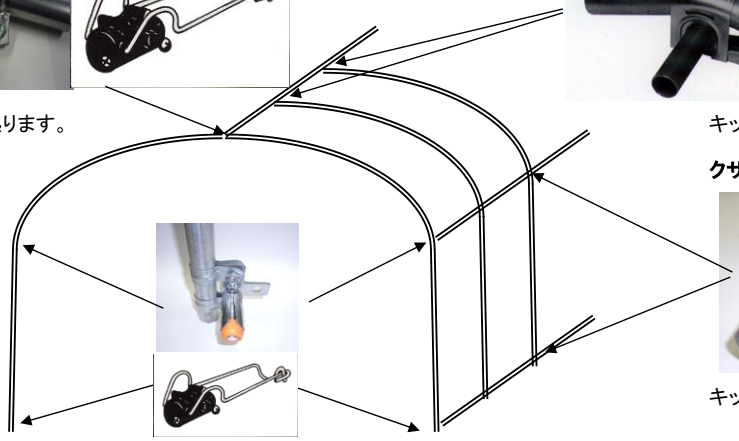


キット部材に拠ります。

クサビクロスもしくはフックバンド



キット部材に拠ります。



ハウスの前後はウツボTポット+ユニバーサルで受けます。(ボルトを通す時にボルト頭が外側になるように締めてください)
天辺のユニバーサルのみそれ以外の部分のユニバーサルより1サイズ大きいものになります。(サイズは物に打刻されてます)

峰の部分はトップバンドを外ジョイントの上から被せるようにして、M字型のクサビを打ち込みます。
肩と裾部分の直管パイプはクサビクロスにて交差して止めます。外側にクサビなど突起物が出ないようにして下さい

直管パイプには45cm毎にマークが入っていますので、裾、肩、峰の直管パイプの固定の目安として下さい。
また、曲りパイプの左右の肩のズレなどをこの段階で調整しないと今後の組立精度が下がります。
風対策の為に、裾の直管パイプは10～20cm位曲がりパイプの足元を掘削の上、埋設になるようにして取り付をお勧めします

オレンジ色部分を緩めて、羽を圧縮しながら、挿入して下さい

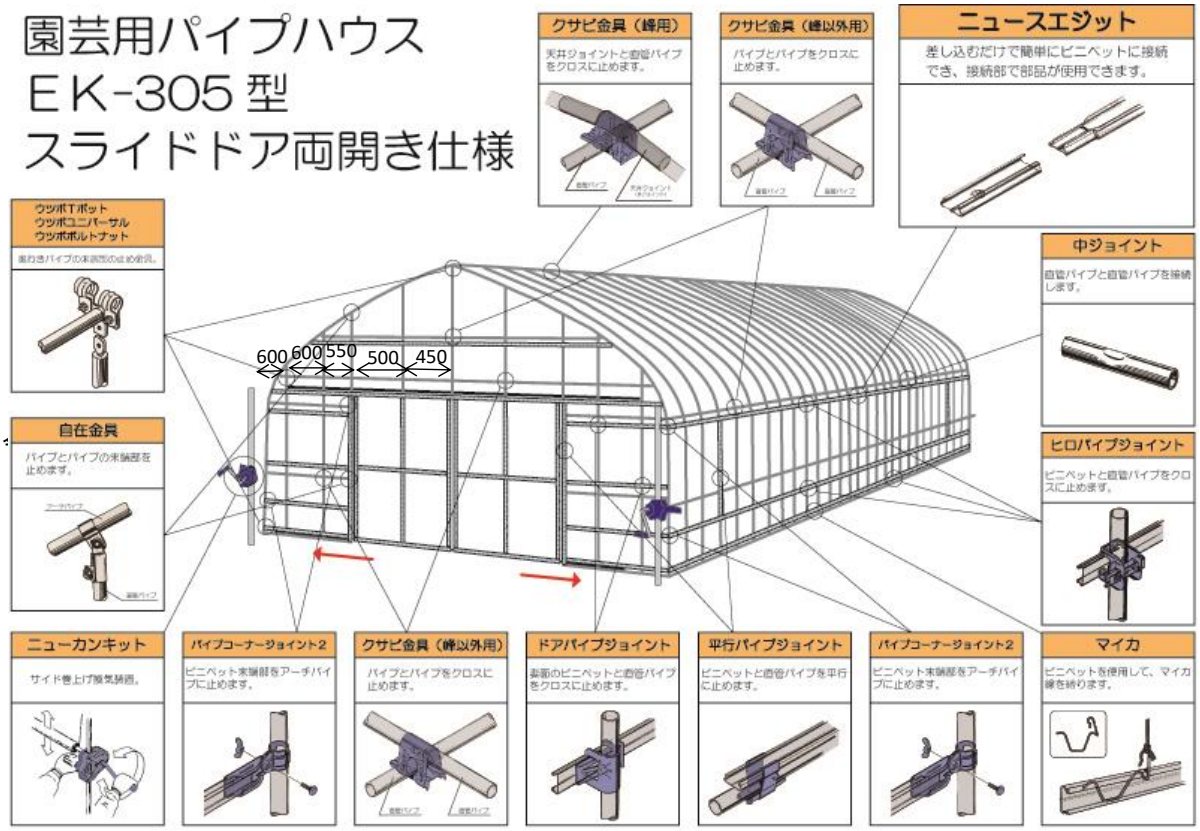
Tポットもしくはパイプを時計周りに廻して動かなくなるま
締め付けて下さい

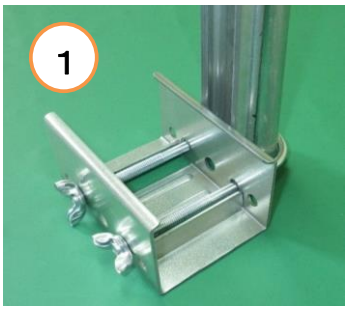
完成です
ウツボ類は同様にパイプ内側にねじ込んで使います

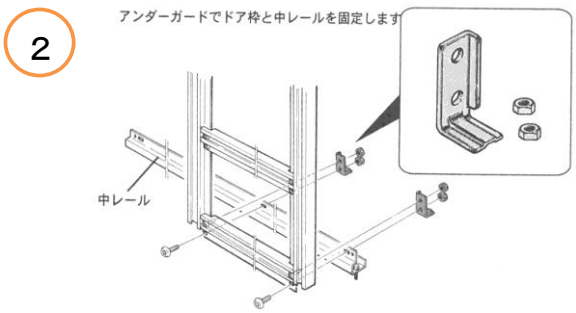
ハウス建て方手引書

妻面組立

パイプ妻面は当社ハウス図面を、別紙ビニツマ添付のニュービニツマ組立説明図をご覧下さい
先に縦の柱パイプを建てるために下の図にある様に縦直管を刺す位置に直管の5．4mに印をつけガイドにして下さい。
縦柱のパイプを刺す場合に前後・左右の傾きに注意し、斜めにならない様にします。
（パイプ妻面でパイプドアなどの場合は、開口部妻縦パイプに事前に通してリングを横渡しのパイプで受ける様にしてください。）
スライドドアの場合は必ず横直管は外付けにし、更にドアが収納される部分の金具がドアに当たる事が想定されるのでドアの下レールを
取り付ける際にはビニペットの切れ端をレール取付金具のUボルト内のパイプと金具の間に挟んで隙間を設けてクサビクロス
のクサビ側と当たらない様にします。当たる場合は、柱そのものが垂直で無いのが原因です。①写真参照
ドアは別途ドアの部品等が入った袋に組立説明書が入ってます。今回はスライドドア仕様（下にレールが残らない仕様）なのでドアの一番下の
桟は下にベロ部分が飛び出すように取り付けます。従って、縦桟にネジ穴が2個開いてますが、下の1個しか使いません。**②参照**







中レールを付ける為にドア横桟の一番下は平な耳が出る様に縦桟の上下2段の穴のう
下の段に横桟上穴を取り付ける様にして、横桟の下の穴に中レールを取付します。

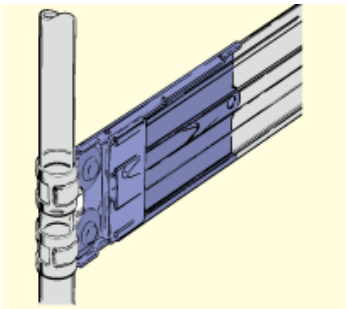
ハウス建て方手引書

ビニペット取付

側面の換気装置が付く場合を前提に説明致します。
肩の奥行直管の直下になる様にコーナージョイントを着け、ビニペットを奥行方向に水平に取り付けます。この際に水平が狂うと側面
フィルムのムラや皺になり、フィルムの寿命が短くなったり、巻上のムラとなります。
同様にGLから約50cmの高さになる様に水糸を張り、それに合わせてビニペットを水平に取付します。
一番下のビニペットは地面GLなりに設置して構いません。
ヒロパイプジョイントを取り付ける場合もドアパイプジョイント同様にビニペットを斜めに差し込む様に取付ます。

ヒロパイプジョイントをねじって差し込んでも同様に取付できます。クサビは最後まで打って下さい。

肩のビニペットはWペットの場合もあります。
Wペットの場合は屋根と側のフィルムを別々に留める事が出来るので
側だけや屋根だけの交換の際に楽です。

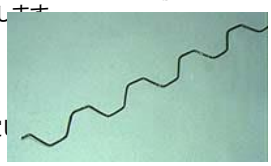


写真の様にビニペットの通りが直線であれば、巻き上げのフィルムなどの
狂いも少なく、巻き上げの際にも均等に上がります。

ハウス建て方手引書

フィルム張り方

1. 裾用のベジタロン裾張り(厚さ0.15・0.2mmがあります)をドア開口部の直ぐ脇から張り始め、中間のビニペットに被覆スプリングに取り付けます。 同様に一番下のビニペットにもスプリングで止め、余った裾は地面に埋めるようにします



2. 側のフィルムも同様にドア脇から張り始め、曲がりパイプに平行パイプジョイントで取付られたビニペットまでを固定します

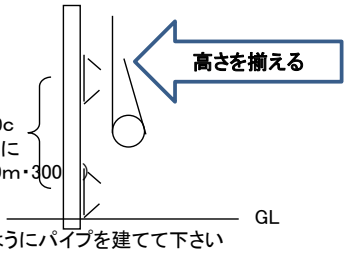
3. 後の妻面は曲がりパイプに取付られたビニペットからスタートして、反対側のビニペットまで固定し

透明なフィルムは外からフィルムの表示が読めるように張ってください
この際に縦柱(エルペット)には1本おきにスプリングを嵌め、屋根が掛かった時点で全ての柱にスプリングが入るようにします

4. 側面の奥行き方向に3で残ったフィルムで最初の曲がりパイプから最後の曲がりパイプまでの間を肩のビニペットから下げるように取り付けます。

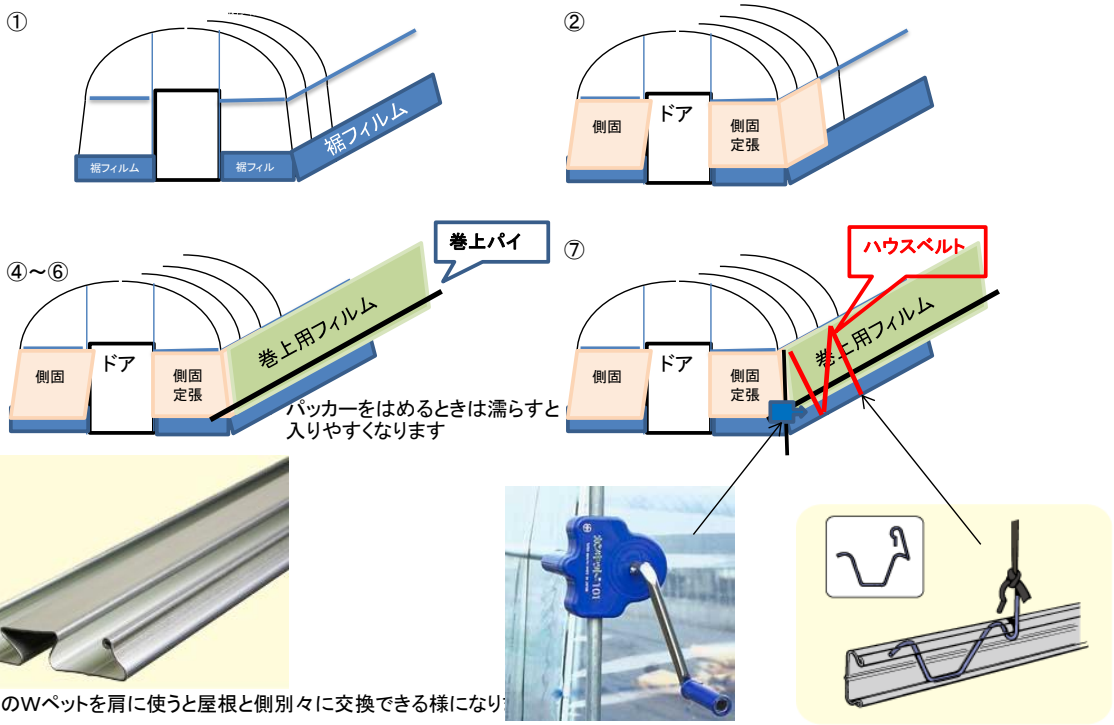
5. 屋根フィルムを妻面の前で左右に広げ、後へ向けて広げながら展張してゆきます(長さが長い場合はハウス脇から徐々に上げる
この時もフィルムの表示が外から読めるように展張して下さい。裏表を間違えるとフィルムの結露防止機能などが発揮されません

6. 巻上をするフィルム(150・185cm幅)に異形スエジパイプ(ディブラント)を取り付けます
パイプ先端は妻面から40～50cm出して下さい。先端に巻き上げ機が付きます
また、パイプを包みこむように巻き込んで、フィルムの端を中間のビニペットを目安にして一定の高さにパイプがなるようにパッカー(19x1800mm)を嵌めてください



7. 巻上のフィルムにパッカーで直管パイプを付けたら、マイカを曲がりパイプの間1ヶ所毎に上、下と向くよう一番下のビニペットと上のビニペットに取り付けして、ハウスベルト(12x500m・300
を上下でジグザグになるように張ります。

8. カンキット(巻上機械)をハウス正面の妻面の巻上パイプに取付して、機器を貫通するようにパイプを建てて下さい



パッカーをはめるときは濡らすと入りやすくなります

オプションのWペットを肩に使うと屋根と側別々に交換できる様になり

ヒント:ハウスは秋に骨材を建て、フィルムは春に張る事をお勧めします。冬の間に雪でパイプ足元が締り、風に強くなります。